

喰積

山田真砂年

薔薇色に朝の来にけり初昔

敬礼の形に仰ぎ初日の出

齒応へのあるが好みやお取初

鏡餅テレビの横に乾きををる

能登半島地震 四句

立ち眩みかと寒禽に餌を投げ損ね

喰積やおろおろ見遣るテレビの画

元日や煙を立てて瓦落つ

喰積の瓦礫の下に散らばれり

裸木の影の全き庫裡の壁

上品じょうほんも下品げほんも冬の空真青

くわんおんの御前に寒鴉のオンコロコロ

宿木は希望のやうや冬青空

山越えて雪は来にけり醬蔵

見おろして手のひらほどに鴨の陣

目高ぬるかど氷つんつん突きけり

手のひらに山雀の乗る四温かな

勾玉を透けたるやうや春日和

とがりたる耳もて春の夜を過ごす

我が顔は弥生人とや若布食ふ

空気より重き梅の香池へ落つ

薄氷や夢の覚めぎは濁りをり

白梅の納言紅梅式部かな

海の風山の風聴き円位の忌

水温む覗いてなんにもぬない池

種蒔くや風は山より降りてくる